

# にけーしよん

11/19~20 癒しのへんろ道を歩こう!

癒しの里、四国の道へんろ道を歩く恒例の「トレッキング・ザ・空海あいなん」が開催されました。1日目はあいにくの雨模様となりましたが、35名の参加者が宿毛市野球場から御荘文化センターまでを歩く松尾坂コースに挑戦、午後からは雨も上がり、各所に設けられた接待所で飴やサツマイモ、ミカン、饅頭、豚汁などの「お接待」を受けていました。

夕方には御荘文化センターで、愛南町出身の俳人夏井いつきさんによる「へんろみち句会ライブ」が行われ、スクリーンに投影された「へんろみち」の写真をお題に約50名の参加者が投句、五・七・五の言葉遊びの妙を楽しみました。

2日目のDE・あ・い・21から宇和島市津島町嵐坂ポケットパーク風園までを歩く柏坂コースには260名の方が参加し、松尾坂コース同様の接待を受けたほか、終点のポケットパーク風園では、前日に続いて参加者を対象に夏井いつきさんによる「句会ライブ」も行われました。



大深浦



松尾坂



豊岡



へんろみち句会ライブ  
(御荘文化センター)



柏坂口



植坂



つわな奥



風園

## 本日! 海日和!! 「辰の落とし子(タツノオトシゴ)」

今年は辰年ですね。海の辰といえば、タツノオトシゴでしょう。昔の人も、その姿から辰を想像したのでしょうか。うまい名前を付けたものです。辰という名前が付いていますが、スポイトのような口で、小さなえさを吸い込むように食べるおとなしい魚です。ゆったり泳ぐ姿は、まさに癒し系。普段は何かにかきついて、流されないようになっていますが、ソフトコーラル(やわらかいサンゴ)にかきついている姿が愛南町らしいところです。

このコラムでは、新しく撮影した写真を使い、今の愛南町の様子を知ってもらえたらと思っています。今月号のために懸命にタツノオトシゴを探したのですが、見つけることができませんでした。地域によっては漢方薬の原料や観賞用として採取されているので、その影響もあるのではないかと心配です。今回の写真は20年以上前に高茂岬付近で撮影した、オオウミウマというタツノオトシゴの仲間です。



環境省自然公園指導員 西尾知照



# 愛南こみゆ

11/12~13 みんなで咲かそう!愛南文化

福浦寿三番叟



藤間流若紫乃の会

展示



中泊・外泊地区祝唄保存会



御荘文化センターをメイン会場として、城の辺学習館、平城交流センターなどで、町文化協会(宮岡秀幸会長)主催による「愛南町文化祭」が2日にわたって開催されました。今年は「みんなで咲かそう 愛南文化」をテーマに、町文化協会に加盟する39団体の展示・研究と45団体の発表が行われました。

11/26~27 カワウソ自然教室

絶滅したとも言われるニホンカワウソの現状を知ること、自然保護の大切さを学ぼうと御荘文化センターで「カワウソ自然教室」が2日間にわたって開催されました。

1日目は、NPO法人四国自然史科学研究センターの谷地森秀二さんと愛媛県文化財保護指導員の高田義隆さんから、カワウソの生態や絶滅に瀕した状況、高茂岬附近の自然についての話を聞き、午後からは野生動物を撮影するためのセンサーカメラの設置に挑戦しました。2日目には、設置したカメラの1台に野生のイノシシが写っていることが判明。写真がスクリーンに大写しされると、参加者から歓声が上がりました。

このほかにも、谷地森先生が撮影した四国に住むツキノワグマやムササビなどの野生動物が紹介され、参加者は改めて四国の自然の豊かさと大切さを感じているようでした。

センサーカメラに写ったイノシシ▶



センサーカメラの設置



12/5 互いを認め合って!ミュージカル「アトム」

御荘文化センターで、手塚治虫の代表作「鉄腕アトム」を原案としたわらび座ミュージカル「アトム」が上演されました。

十萬馬力のアトムの時代が終わった未来の世界を舞台に、人間とロボットの境界を越え、互いに認め合って生きていくことの大切さを謳うミュージカルで、昼間は町内中学校1、2年生と教員など約520名が、夕方からは一般の来場者約250名が、多彩な表現で現代を描くミュージカルの世界を鑑賞しました。多くの方々が、テーマに込められたメッセージを感じていただけたのではないのでしょうか。